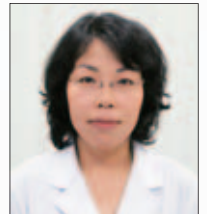


皮膚疾患における漢方治療の有用性

JA高知病院 形成外科・皮膚科 野田 理香 先生



1995年 徳島大学医学部医学科 卒業 皮膚科 入局
1997年 徳島大学病院 形成外科 入局 医員
2004年 四国中央病院 形成外科・皮膚科 医長
2007年 JA高知病院 形成外科・皮膚科 医長
2009年 同病院 非常勤

皮膚は心の影響を受けやすい臓器であり、強い精神的ストレスや不安はさまざまな疾患を発症する要因となる。また、皮膚疾患は患者が症状を見る、あるいは触ることで病状を確認できるため、皮膚の異常がストレスを増幅させ、症状を悪化させることにもつながる。今回、漢方薬を治療に組み入れることでストレスの軽減と体質改善を図り、大きな治療成果をあげているJA高知病院 形成外科・皮膚科の野田理香先生に、皮膚科領域における漢方治療の実際についてお話を伺った。

高知県東部の地域医療・へき地医療に貢献

高知県は山間部の面積が広く、人口の約40%が高知市に集中しており、一方で都市部を除く地域は過疎化が進んでいます。県全体の高齢化率は約30%ですが、過疎地を抱える自治体では40%を超えるところもあります。しかも過疎地は無医地区が多いため、高知県は2003年4月に「高知県へき地医療支援機構」を設置し、医療供給体制の確保に努めています。

高知県厚生農業協同組合連合会(JA)の一機関である当院も、高知市に隣接する南国市を拠点に高知県東部への良質な医療の提供に取り組んでいます。当院は1931年に開設され、昨年度に80周年を迎えました。病床数は178床ですが、併設する介護老人保健施設、居宅介護支援事業所とともに医療と介護、在宅療養支援を展開しています。そして形成外科・皮膚科は2007年に開設されました。

褥瘡に対する漢方薬の効果

私は徳島大学を卒業後、同大学病院の皮膚科で研修を受けました。元々、外科的な治療に興味があったので、研修終了後に形成外科診療班へ移籍しました。

2003年に形成外科専門医(日本形成外科学会認定)を取得するまでは、関連病院の形成外科で経験を積み、2004年に四国中央病院(愛媛県四国中央市)に赴任しました。当時、同院では形成外科と皮膚科が一緒でしたので、非常勤皮膚科医が不在の日は皮膚科も兼務しました。

愛媛県も高齢化が進んでいますので、多くの高齢患者さんが来院されますし、形成外科では褥瘡の治療も多く手がけました。褥瘡は通常、皮膚外用薬や創傷被覆材を用いた保存的治療、あるいは外科的治療を行います。しかし、あ

るときこれらの治療が無効で対処に苦慮する患者さんに遭遇しました。補中益気湯が褥瘡に有効であることは知っていましたが、褥瘡治療に内服薬、しかも漢方薬を使用した経験がなかったため、半信半疑で試してみました。すると思っていた以上に褥瘡の改善がみられ、補中益気湯の効果に非常に驚きました。これを機に漢方薬に関心を持つようになり、他の症例や疾患にも応用できないかと漢方の勉強をはじめ、さらに漢方診療の経験を重ねました。

皮膚科疾患に対する漢方治療

形成外科領域で漢方薬を使用する機会は少ないのですが、皮膚科領域でストレスや瘀血が関与する疾患に漢方薬を積極的に使用しています(表)。

たとえば、湿疹・皮膚炎群に一般的にはステロイド外用薬や抗ヒスタミン薬などを使用しますが、ストレスが痒みの誘因となっているような患者さんには、効果が出にくいことがあります。舌尖の赤みや、臍傍動悸がある場合、ストレスがたまっていることがあり、「何かストレスとなることはありませんか?」と問いかけます。他人に心の内を明かすことに抵抗を感じる方も、このように問いかけるといろいろ話してくださいます。その場合には漢方薬を取り入れていくことが多いです。

ストレスが強く関与する疾患として、多汗症があります。これらは西洋医学的に有効な治療薬がないため、塩化アルミニウム液の塗布で対応するくらいでしたが、抑肝散と補中益気湯の併用で、症状の改善がみられます。脱毛症もストレスが関与しますが、カルプロニウム塩化物水和物に柴胡加竜骨牡蛎湯を併用することで「気にならなくなった」という患者さんの声を多く聞いています。

一方、瘀血を伴う患者さんは駆瘀血剤によって痒みが改

善します。たとえば下肢静脈瘤の周辺にうつ滞性皮膚炎を起こして痒みを訴える患者さんに、ステロイド外用薬と桂枝茯苓丸を使用したところ、痒みが軽減しました。

また、アトピー性皮膚炎の患者さんを含め、現代社会では瘀血証の患者さんが多いようです。もちろん、漢方薬単独で寛解に導くことは難しいので、まず西洋薬で症状を抑え、駆瘀血剤で体質を改善します。さらに寛解の維持には正しい食生活が不可欠だと考えていますので、徹底した食事指導も行っています。

表 JA高知病院 形成外科・皮膚科の主な漢方処方

領域	疾患	処方
形成外科	褥瘡	●十全大補湯 ※気血両虚の場合、第一選択薬とする ●補中益気湯
	尋常性瘡癩(にきび)	●十味敗毒湯 ※「尋常性瘡癩治療ガイドライン」推奨薬
皮膚科	蕁麻疹	●十味敗毒湯
	多汗症	●抑肝散+補中益気湯 ●柴胡加竜骨牡蛎湯 ※ストレスが関与することが多いため、「肝」を抑え、「気」を巡らせる
	脱毛症	●柴胡加竜骨牡蛎湯+カルプロニウム塩化物水和物
	うつ滞性皮膚炎(下肢に静脈瘤がある場合)	●駆瘀血剤(桂枝茯苓丸、当帰芍薬散など) ※抗ヒスタミン薬の単独よりも症状の改善が早い
	アトピー性皮膚炎	●ステロイド外用薬で症状を抑え、駆瘀血剤(桂枝茯苓丸など)で体質改善し、EPA製剤+食事指導を行う ●消風散 ※水毒証の場合 ●柴胡剤 ※胸脇苦満の場合 ●越婢加朮湯
	尋常性乾癬	●桂枝茯苓丸+EPA製剤+食事指導 ※瘀血の場合 ●温清飲+EPA製剤+食事指導
	凍瘡	●当帰四逆加呉茱萸生姜湯 ※動脈硬化が強い場合はEPA製剤を併用



しかし、同じ多価不飽和脂肪酸でも魚に含まれるn-3系脂肪酸のEPA(エイコサペンタエン酸)は、血小板凝集作用のないトロンボキサンA₃、炎症作用のないロイコトリエンB₅が産生され、n-6系と競合的に拮抗します。そのため当科では、食事指導とあわせて脂質異常症等がある方にはEPA製剤を処方することもあります。実際、EPA製剤の投与により舌下静脈の改善がみられたこともあり、駆瘀血作用のある動物性生薬という側面があるのではないかと考えています。

また、菓子パンなどに使用されるマーガリンやショートニングはトランス脂肪酸を多く含有しており、アレルギー症状の悪化因子になりますので、摂取を控えるよう指導します。

「西洋の漢方薬」アロマセラピーを取り入れる

私は日本アロマセラピー学会の認定医でもあるので、精油を日常診療で活用しています。精油は「西洋の漢方薬」のようなものではないかと思えます。

当科では診察室にディフューザーを設置し、ストレスの軽減やインフルエンザの罹患予防等を目的に芳香浴をさせていただいています。

また、小児の伝染性軟属腫の治療では、摘除後にティーツリーやラベンダーを混ぜたオイルを塗布すると、再発が少なくなることもあります。

西洋医学にはない漢方医学の魅力

皮膚は、目視で病状を確認できる臓器なので、体表にできるがんの場合は、その前駆病変を早期に見つけ、手術ではなく外用治療することが最近できるようになりました。また、アテローム、リポーマなどの良性腫瘍や皮膚がんの周囲には細絡が出現したり、舌下静脈の怒張が見られることがあります。細絡や舌下静脈の怒張は瘀血の所見なので、瘀血は腫瘍を形成するベースになりうるのではないかと考えています。このような予兆を見逃さず、体質を改善していけることも漢方医学の魅力です。

漢方のもう一つの魅力は、患者さんの状態に沿って治療を変えて寄り添っていけることだと思います。私自身、まだまだたくさん勉強しなければならないことがありますが、漢方医学を学ぶことにより、西洋医学一辺倒だったところに比べて治療成績は向上したと思います。このようにすばらしい力を持つ漢方医学が、さらに広く臨床現場に普及し、一人でも多くの患者さんの治療に寄与するようになることを願っています。

痒みの治療には食生活の見直しも重要

痒みを伴う皮膚疾患の治療において、薬物療法だけでなく食事指導も重要です。これは、アトピー性皮膚炎で入院した私の娘の闘病から学びました。したがって、当科では患者さんに徹底した食事指導を行い、痒みの早期軽減を目指しています。

現代の日本人の食生活で留意すべき点は、日々摂取する油脂の種類と量です。とくに近年、リノール酸の過剰摂取が問題になっています。リノール酸は多価不飽和脂肪酸のn-6系脂肪酸であり、その代謝物であるアラキドン酸は血液凝固作用の強いトロンボキサンA₂や強い炎症惹起作用を有するロイコトリエンB₄などを生成し、心血管イベントやアレルギー症状の原因となります。

初診時に用いる食生活に関する問診票

身体に痒みのある方へ

①下記で該当するものがあれば○をつけて下さい。
胃こり 冷え 便秘 睡眠不足
 部位はどこですか? 全体 腹部 手足
 +女性の方+ 生理不順 生理痛

②肉料理・魚料理のどちらが多いですか?
肉料理が多い 同じくらい 魚料理が多い

③食用油は何を使用していますか?
サラダ油 キャノーラ油 オリーブ油 その他

④トランス脂肪酸という言葉を知っていますか?
いいえ はい

⑤下記のもので食べているものに印をつけて下さい。
 3回/日以上は○
 1回/日以上は○
 1回/月以上は△

菓子パン 調理パン ハンバーガー類 ピザ
乳製品・牛乳・ヨーグルト アイス チョコレート類
スナック菓子・ポテトチップス等 洋菓子 和菓子
スーパーの惣揚げ類 家庭での揚げ物 コンビニ弁当
カップラーメン カレー シチュー
マヨネーズ類 ドレッシング コーヒーのフレッシュ
マーガリン ファストフード